

小川 洋 60

(耳鼻咽喉科学講座教授)



耳鼻科外来には、患者さんが「耳鳴りがうるさくてつらい。〇〇耳鼻科に行ったらけれど良くならず、何とかしてほしい」と訴え、複数の耳鼻科を受診されるケースがあります。

「耳鳴り」は昔からさまざまな治療方法が試みられていますが、なかなか厄介で根本的な治療が

難しいです。耳鳴りといっても、筋肉のけいれんや血管の雑音などといった耳に直接的な原因がなく、患者さんが耳鳴りとして訴えるものがあります。このような場合は原

因を明らかにして対応することができません。

しかし、最も多く患者さんが苦労しているものが、耳が原因で起こる耳鳴りです。内耳の機能が低下して聴力が悪化すると、それを補おうとして音の変化を捉えようとす

改善したにも関わらず耳鳴りが残ってしまうケースがあります。めまいと難聴を繰り返すメニエール病でも、耳鳴りを強く訴える方がいます。聴力が低下すると、「聞こえの調節機能」により耳鳴りが生じてしまうことが

あるわけです。また、ストレスや睡眠不足、疲労なども誘因の一つとされています。

で音楽を聞いたりして、過剰な音の刺激で聴覚障害を来すことが分かっています。

まず聴力低下を防ぐためには、過度な音響環境を避け、健康な生活を心がけることが大切です。補聴器を装着するこ

耳鳴りの原因さまざま

る働きが出てきます。この症状が強いと、ある特定の音が異様に響いて聞こえたり、余計な音が常に耳の中で聞こえたりすることがあります。

突発性難聴の場合は突然、聴力が悪化しますが、この病気になるって聴力が

あるわけです。また、ストレスや睡眠不足、疲労なども誘因の一つとされています。

聞にわたってヘッドホン

とで、耳鳴りが軽減することもありますが、耳鳴りが気になる方は、まず聴力がどのような状態であるのか、耳鼻咽喉科を受診して評価してもらい、その背景にある危険な病態の有無も調べてもらうことをお勧めします。

診して評価してもらい、その背景にある危険な病態の有無も調べてもらうことをお勧めします。